

◇現代社会と青年◇

若者にかける言葉

株式会社キャリアアコソサリティンク
代表取締役社長

むろだて いさお
室館 勲



六月二十一日、米プロバスケットボールNBAのドラフトがおこなわれ、見事、八村塁選手（二十一歳、ゴンザガ大学）がワシントン・ウイザーズから日本人初の一巡目全体九位指名をされました。年俸も約四億円が約束されています。

私は小学校から高校までバスケットボールに熱中し、マイケル・ジョーダンに憧れ、NBAをテレビで観戦するのが楽しみの一つでした。日本人初のNBA選手となった田臥勇大選手が試合に出たときは、うれしさのあまり目頭が熱くなりました。今回の八村選手の一連の報道を観て、勉強になったことがあります。それは、指導者から八村選手への言葉がけです。バスケットボール未経験だった中学生、八村少年に対し、富山市の奥田中学校の恩師である坂本コーチは「お前はNBAに行くんだ」と話し、マイケル・ジョーダンの動画を見せることで、どんどんその気にさせていったそうです。八村選手は、心に残った言葉の一つとして、坂本コーチから

の「お前はNBAに行くんだ」という言葉を挙げています。

さらにもう一つ。八村選手は、仙台市の明成高校時代の恩師、佐藤監督からの一言を、人生で一番うれしかった言葉として挙げています。それは、ベナン人の父と日本人の母のハーフである八村選手に対しての言葉「お前はハーフの大将になれ」だそうです。

ドラフト会場にジャケット姿で登場した八村選手。そのジャケットの裏地に、本人のルーツである日本の浮世絵とベナンの民族柄の刺繍が入っていました。メディアに披露する彼の表情は満面の笑みでした。

昨今では、スポーツ界や芸能界などでもハーフの方をよく見かけるようになりました。ただ、ハーフということでは実は劣等感を持っていたり、いじめられたりしている子供たちもいるようです。八村選手の心の中では、ハーフのみんなを背負って闘うことで、自分のエネルギーに変えているように思えました。

弊社のオフィスには、多くの若者が就職活動の成功や、リーダーシップ向上、自己実現を目標に通っています。指導者の言葉がけ一つで若者はいくらでも輝くものです。そのためには、相手の背景や現状を気につけて、指導者自身も良い言葉に触れるような自己研鑽が大切だと考えています。

若者にどんな言葉をかけ、何人の心に火をつけられるのか、日々精進です。